

# 離婚経験者の経済状況の性別格差

## ——趨勢と規定要因——

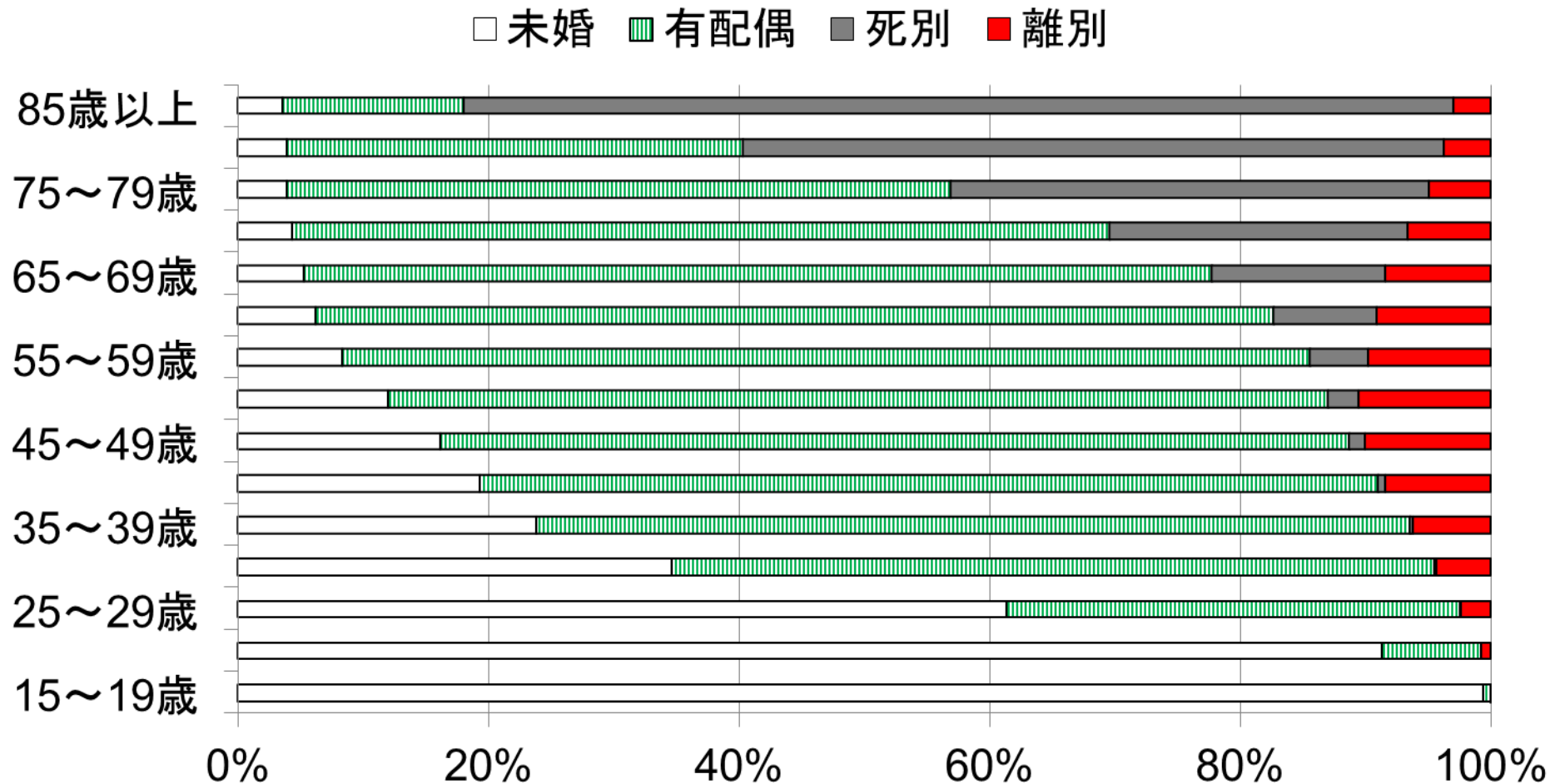
田中 重人 (東北大学)

<http://tsigeto.info/22z>

# 目的

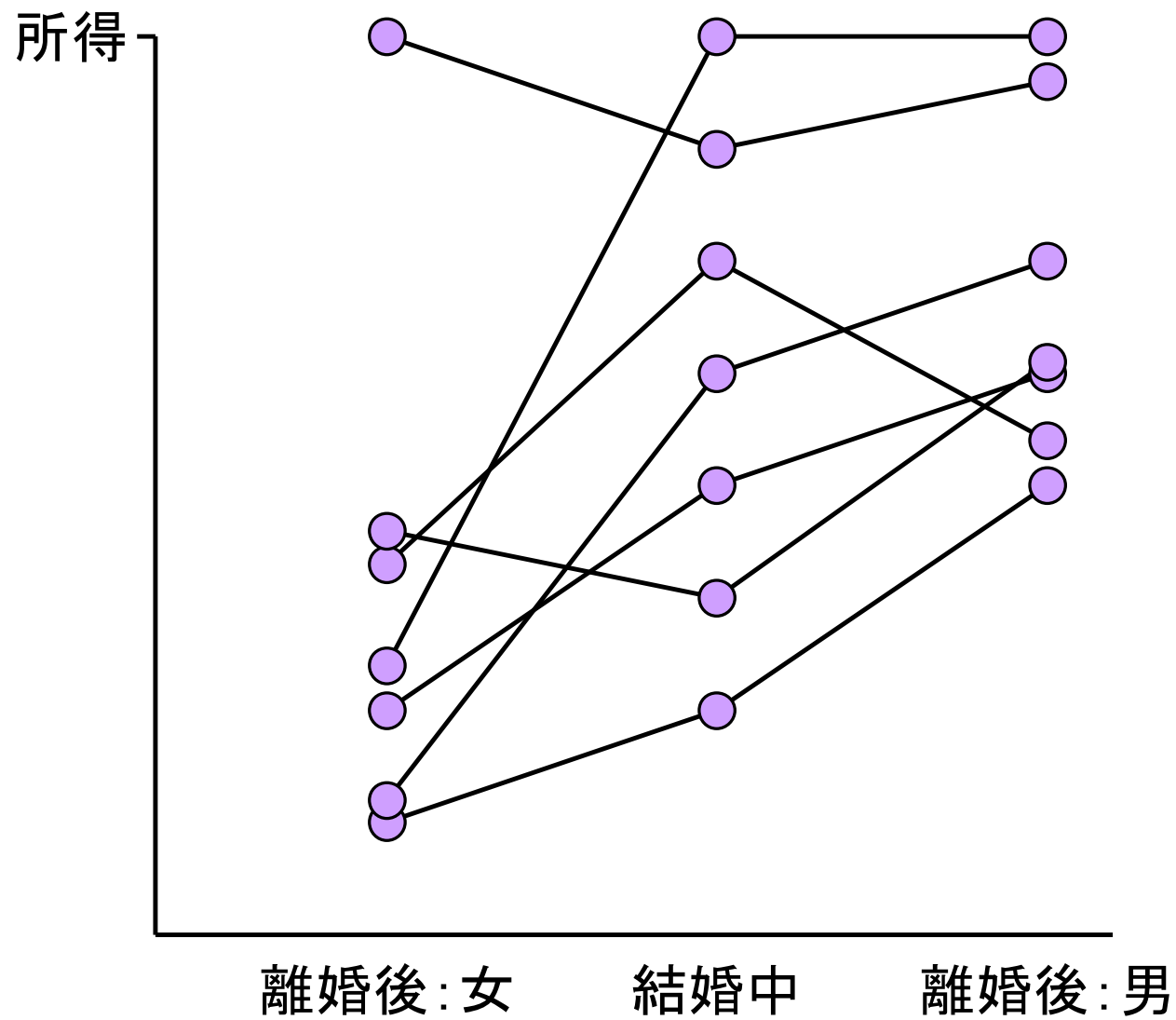
離婚経験者の生活水準の男女間の格差と  
その要因を定量的にあきらかにする

# (参考) 女性の年齢別配偶関係

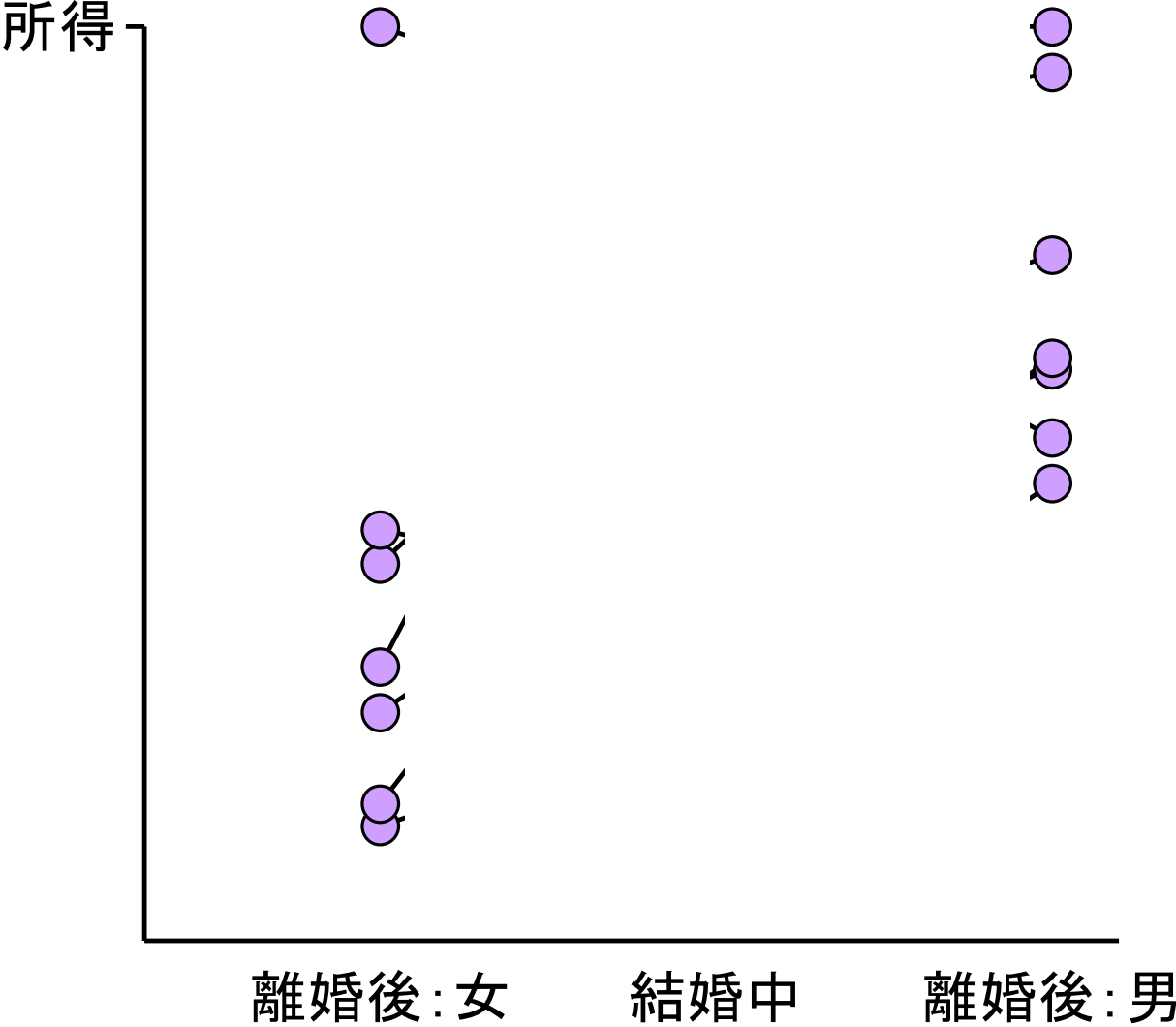


2015年国勢調査 < <https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003410382> >

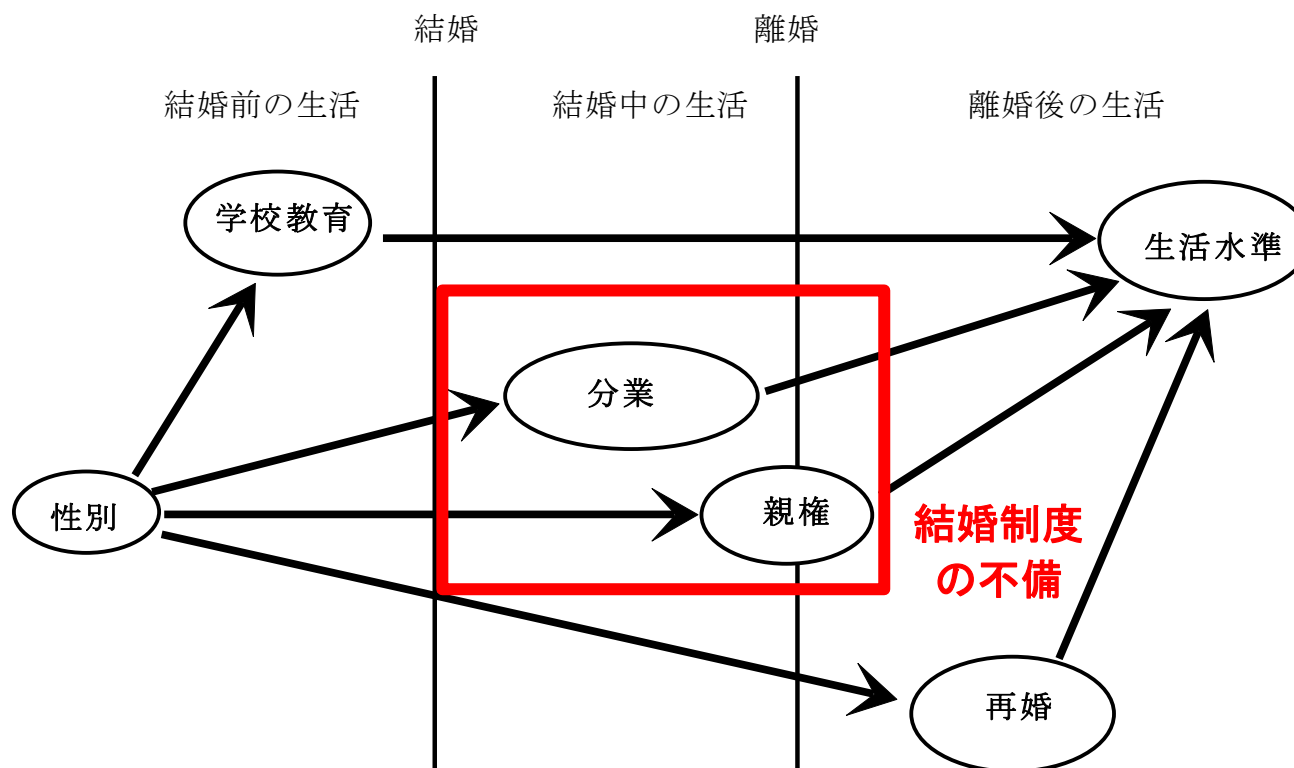
# 知りたいこと



# NFRJ でわかること



# 離婚後の男女格差を生む経路



- 結婚・出産・育児によるキャリア中断
- 離婚時に母が子を引取ることが多い

NFRJ98 から NFRJ08 では、

4 要因すべて効果あり。

NFRJ18 では? (おなじ方法で結果を比較)

# 等価所得

## Equivalent income

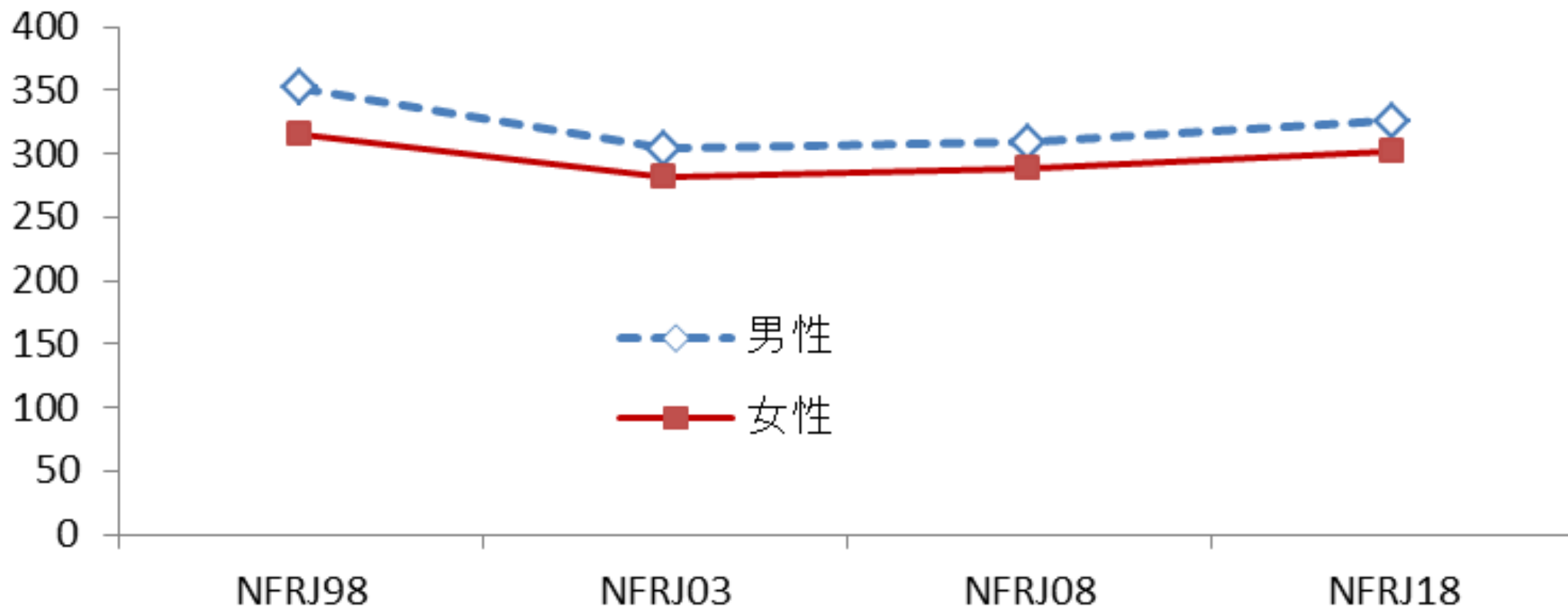
$$\frac{\text{世帯年間収入}}{\sqrt{\text{同居人数}}}$$

※ 通常は可処分所得と世帯人数であるが……



# 等価所得の男女差

(万円)



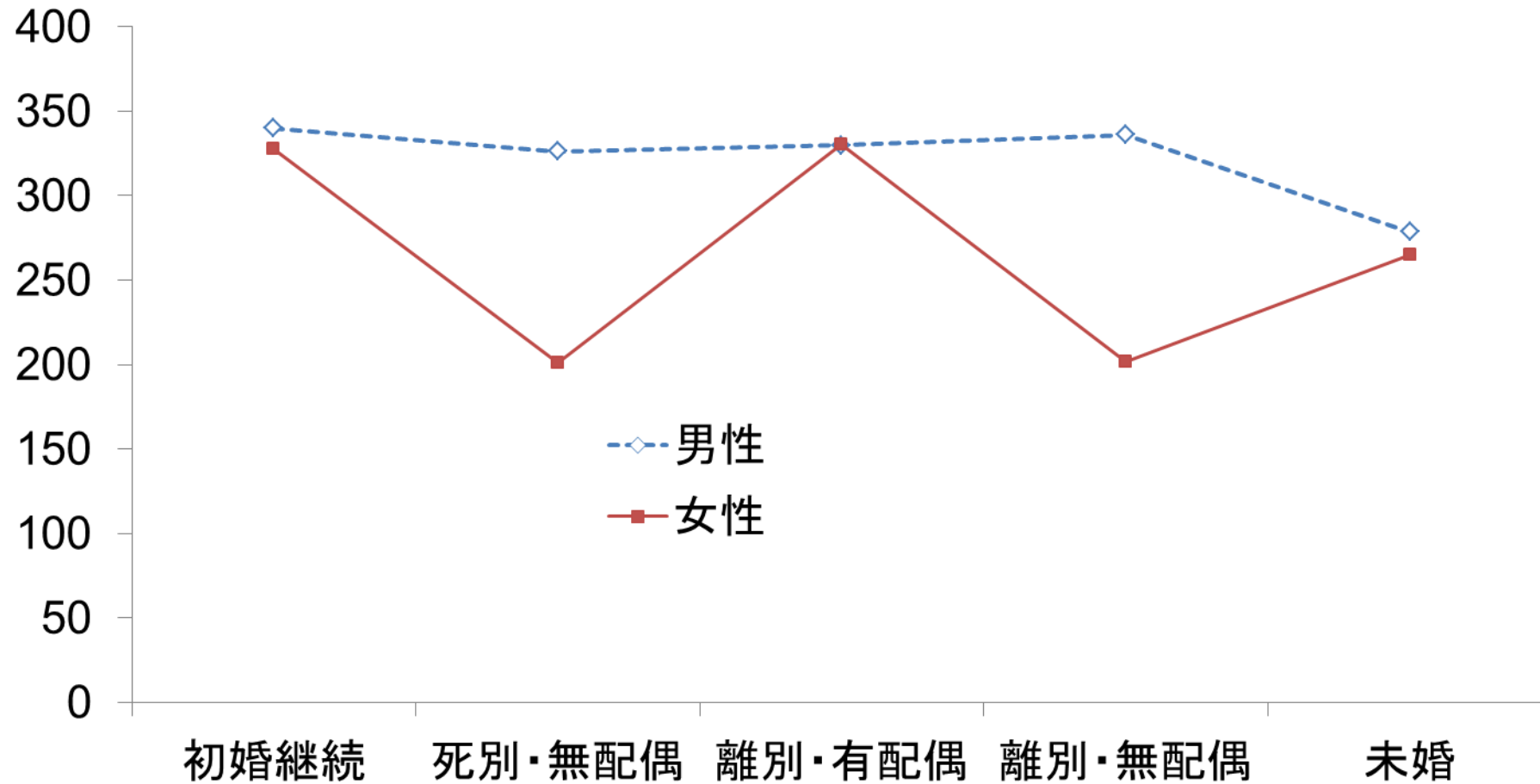
※ 対数の平均値の指数。以下同様。

# 婚姻履歴

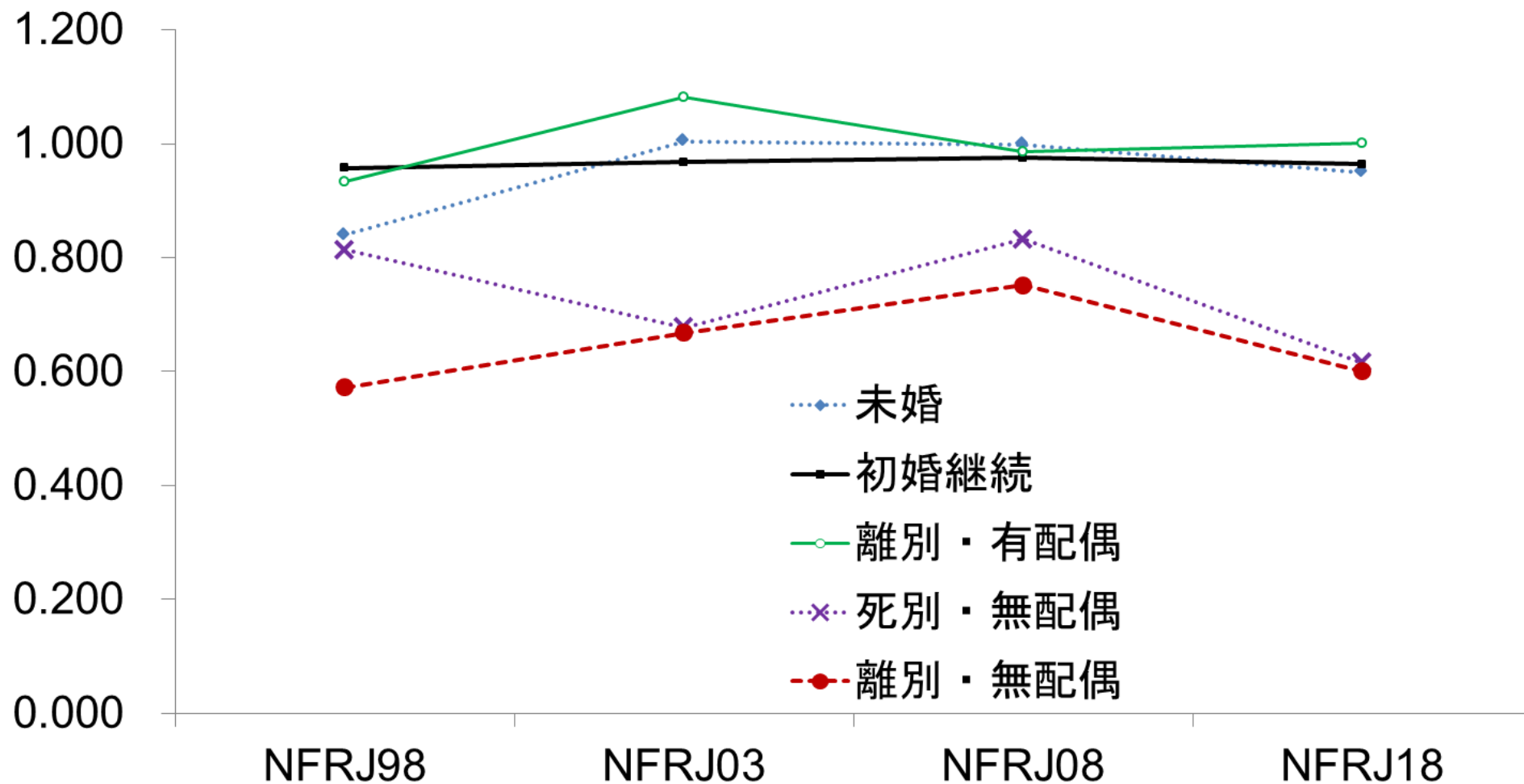
1. 初婚継続
2. 死別 有配偶 (少ないので以下では省略)
3. 死別 無配偶
4. 離別 有配偶
5. 離別 無配偶
6. 未婚

# NFRJ18 の結果

(万円)



# 性別格差 (女/男): NFRJ98-NFRJ18



- 離別無配偶で女性が 25–40%低い
- 未婚や初婚継続では差はほとんどない
  
- NFRJ08 までは、離別無配偶男性の所得が下がって格差が縮小していたが、NFRJ18 ではその傾向がない

# 重回帰分析

離婚経験のある回答者だけに限定

人数：292

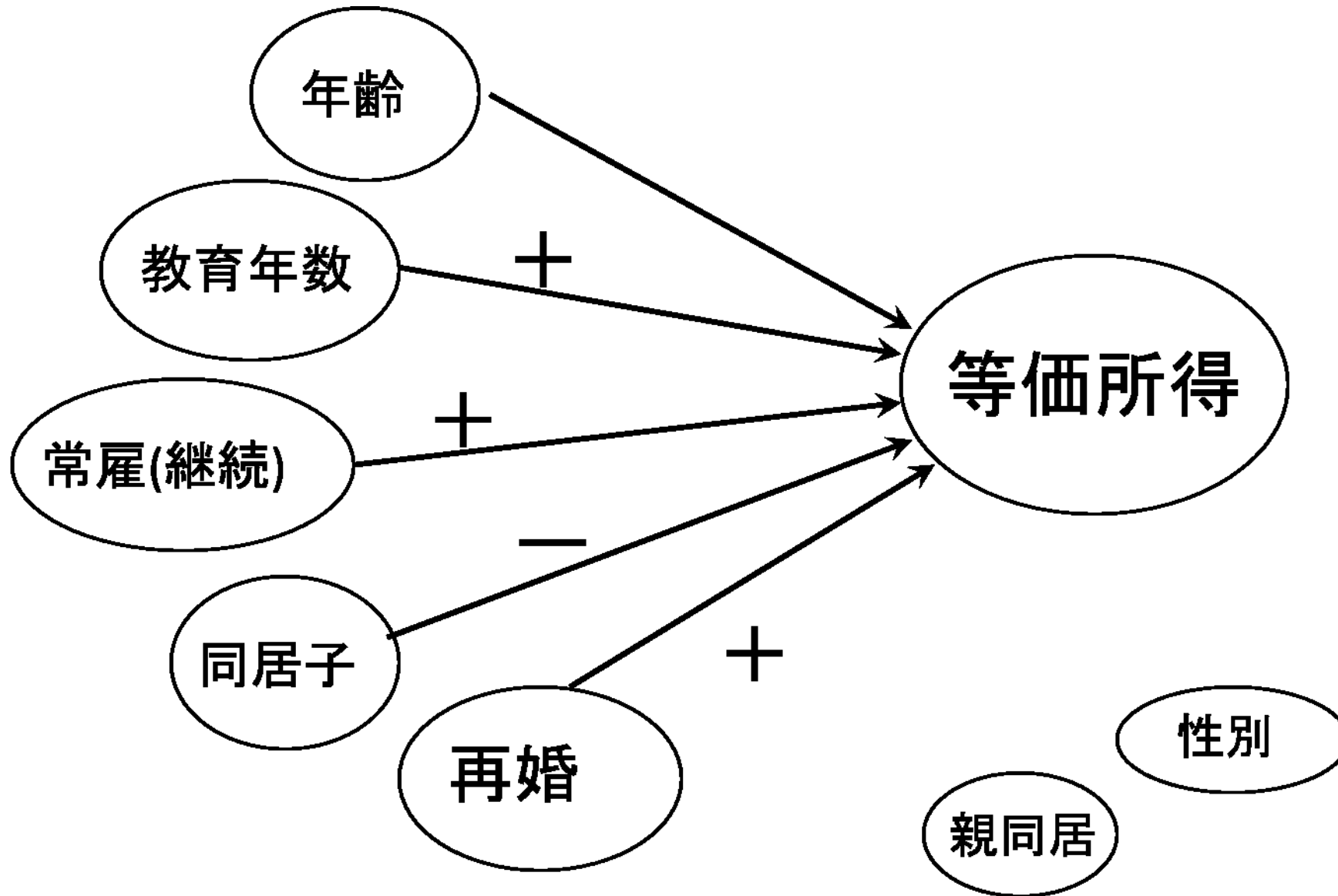
## 独立変数：

- 性別
- 年齢
- 教育年数
- 配偶者の有無
- 現職が常時雇用か
- 同居子の有無 (前婚の子のみ)
- 世帯構成 (単身か; 親同居)

## 等価所得を規定する要因

- 学歴が高いほど高い
- 再婚していると高い
- 常時雇用だと高い
- 同居子がいると低い





# 同居子の効果はやや不安

- 13-18 歳でのみ効果
- 離婚時の状況による違いが一貫しない  
(初婚の子でないと効果が大きい?)  
→いまいち自信がなく、報告書非掲載

## 結果のまとめ

- 離別無配偶者に大きな男女格差
- 未婚者・初婚継続者に男女格差はみられない
- 離別経験者の男女格差の4つの要因  
(学歴・常時雇用・同居子・再婚)

(以上は NFRJ08 までと共通)。

## 離別経験者について NFRJ08 までと異なる点

- 男女格差が拡大に転じる
- 世帯構成にかかわらず、一貫した男女格差

# 文献

NFRJ18 報告書論文：

田中重人(2021)「離婚経験者の経済状況の性別格差: 趨勢と規定要因」第4回全国家族調査 (NFRJ18) 第2次報告書1 <[https://nfrj.org/nfrj18\\_pdf/reports/2\\_1\\_10\\_tanakasigeto.pdf](https://nfrj.org/nfrj18_pdf/reports/2_1_10_tanakasigeto.pdf)> .

NFRJ08 までの結果：

田中重人 (2013) “Gender gap in equivalent household income after divorce”. Tanaka S (編) *A quantitative picture of contemporary Japanese families*, 東北大学出版会, 321-350.

# 謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP17H01006 の助成を受けています。NFRJ18 は日本家族社会学会・NFRJ18 研究会（研究代表：田渕六郎）が企画・実施した調査で、本研究では ver.2.0 データを利用しています。